

## 5. リユース食器・リユースカップ

### サッカー観戦で

プロサッカーチームの試合会場でリユースカップが、野外音楽フェスティバルやイベント、お祭りではリユースカップや食器が使用されるようになりました。

2003年3月に、J1大分トリニータのホームスタジアムの大分スポーツ公園総合競技場(愛称:ビッグアイ)に、リユースカップが実証事業として導入されたのを皮切りに、名古屋グランパス、ヴァンフォーレ甲府、横浜マリノス、アルビレックス新潟のホームスタジアムと、2005年シーズンまでに次々と導入されていきました。使用後に返却するリユースカップと並んで、自宅から持参して持ち帰るマイタンブラーを販売しているプロサッカーチームには、ベガルタ仙台やFC東京などがあります。サッカー観戦でも環境配慮の努力がはじまっており、ごみの削減と温暖化防止にも寄与していると言えるでしょう。



▲カップを返すと100円(デポジット)返却  
※アルビレックス新潟の場合

### 野外の音楽イベントで

野外音楽イベントでリユースカップや食器の導入で光るのは、掛川のつま恋で毎年行われてきたapbank fes'でしょう(2013年は休止)。2005年7月に始まった3日間にわたる音楽イベントは、ごみの分別を促し、

マイ箸・マイカトラリー・マイ食器持参の呼びかけもしています(カトラリー=洋食器のうちナイフ、フォーク、スプーンなどの金物類)。

会場の一角には洗浄機が設置され、全国から応募したボランティアが洗浄ブースで、カップや食器の洗浄に汗を流しています。イベント終了後には、ホームページで「環境報告書」を公開し、その徹底した主催者の姿勢が共感を呼んでいます。

### 地域のお祭りで

地域の小さなお祭りでもリユースカップや食器が活躍しています。「大潟まつりかっぱ伝説」では、地域の人々が出店する屋台が、賑に花を添えています。ジュニア・リーダー OGが出店するジュースの屋台では、デポジット付きでジュースを販売し、商工会青年部はリユースカップでビールを販売しています。他にも、リユースどんぶりやうどんが販売されています。 サッカースタジアムや音楽イベント・地域のお祭では、販売する人と買う人が顔を合わせ、“ごちそうさま”と“ありがとうございました”の挨拶が交わされています。

